

授業科目名： こどもの遊び	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永井 広子
			担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・健康		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達に応じた遊びの理解と指導法について、保育者としての責任をもって取り組むことができる。 2. 学んだ知識や技能を生かし、教材を準備したり工夫して作ったりできる。 3. 子どもの発達や興味・関心に応じた、環境の構成や教材を実践的に扱うことができる。 			
授業の概要			
<p>5領域の学修を基盤として、保育現場でのエピソードや実践事例を多用し、発達に即した豊かな幼児の遊びについて理解できるようにする。その上で教材の選定や扱い方、様々な遊びの体験、模擬保育等を通して実践に生かせる力を身に付ける。その中で子どもの遊びについての見方・考え方、遊びを通して育まれる資質・能力への理解が深められるようにし、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図っていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：発達に即した道具や遊び方について（大きなシャボン玉で遊ぶ・水遊び）</p> <p>第2回：運動前の準備体操やストレッチ（発達に即した体操・リズム表現を楽しむ体操・学生提案）</p> <p>第3回：身近な遊具や素材を使った運動遊び（新聞紙・風船・ボール・短縄等）</p> <p>第4回：身近な遊具や素材を使った運動遊びの模擬保育（遊びの提案と実践）</p> <p>第5回：運動遊びを楽しむ場面での保育者の役割（運動会の観察・遊びから競技へ・バルーン）</p> <p>第6回：多様な動きの経験①（身近な用具や素材を使うサーキット遊びの計画立案）</p> <p>第7回：多様な動きの経験②（サーキット遊びの実践と省察）</p> <p>第8回：行事と遊びを考える①（運動会の親子競技を立案・教材研究・指導案作成）</p> <p>第9回：行事と遊びを考える②（運動会の親子競技を実践・遊び方やルールの確認）</p> <p>第10回：行事と遊びを考える③（運動会の親子競技の実践と動画による振り返り）</p> <p>第11回：ルールのある集団遊び（年齢に即した遊び方やルール・ドッジボール等）</p> <p>第12回：多様な動きの経験①（（身近な用具や素材を使うサーキット遊びの計画立案・教材研究）</p> <p>第13回：多様な動きの経験②（サーキット遊びの実践、指導の実際）</p> <p>第14回：多様な動きの経験③（サーキット遊びのポスターツアーによる省察）</p> <p>第15回：健康としての季節や気候と保育（冬ならではの遊び・鬼ごっこ・風と遊ぶ）</p>			
テキスト			
教員作成資料			
参考書・参考資料等			

『鬼ごっこ・ルール遊び』（現代と保育編集委員会、ひとなる書房）、『あそびと活動のアイデア50』（保育環境研究所ギビングツリー（編集）、明治図書）、『遊びを中心とした保育「援助」と「展開」』（河辺貴子、萌文書林）、『幼児期運動指針ガイドブック』（幼児期運動指針策定委員会、文部科学省）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）

学生に対する評価

レポート・課題（40%）、作品・実技（40%）、授業への取り組み意欲や態度（20%）

授業科目名： 幼児と人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永井 広子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・人間関係		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><テーマ> 領域「人間関係」の指導の基礎となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題について理解している。 2. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 3. 人と関わる力の育ちが、その後続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>子どもを取り巻く人間関係の現代の特徴とその社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に指導の基盤となる基礎理論として、関係発達の視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション「人間関係」とは</p> <p>第2回：乳幼児期の人との関わりをめぐる現代の特徴と課題</p> <p>第3回：領域「人間関係」ねらいと内容の理解</p> <p>第4回：0歳児から3歳未満児の育ちと人との関わり</p> <p>第5回：事例で深める0歳から3歳未満児の人間関係</p> <p>第6回：安心・安定を基盤として過ごす3歳児の育ちと人との関わり</p> <p>第7回：事例で深める3歳児の人間関係</p> <p>第8回：友達と共に過ごす楽しさや仲間意識が芽生える4歳児の育ちと人との関わり</p> <p>第9回：事例で深める4歳児の人間関係</p> <p>第10回：道徳性・規範意識の芽生えと育ち</p> <p>第11回：自立心・協同性の芽生えと育ち</p> <p>第12回：友達と生活や遊びをつくる5歳児の育ちと協同性</p> <p>第13回：事例で深める5歳児の人間関係</p> <p>第14回：地域との関わりで広がる乳幼児期の人間関係</p> <p>第15回：幼児期の終わりまでに育みたい10の姿と小学校とのつながり</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『新訂事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』（無藤隆監修・岩立京子編著、萌文書林）

参考書・参考資料等

『保育内容人間関係』（岩立京子・西坂小百合編著、光生館）

学生に対する評価

筆記試験（40%）、レポート・課題（40%）、授業への取り組み意欲や態度（20%）

授業科目名： こどもの育ちと家庭 ・地域	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤 さゆり 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・人間関係		
授業のテーマ及び到達目標 家庭・地域の現代的課題とその社会的背景を理解し、子どもが「多様な人と共にあること」による育ちの重要性を理解する。 人間関係の育ちを支えるための視点から、園・家族・地域が連携した保育について理解する。			
授業の概要 家族のあり方が変化している背景には、社会の個人化が深く関わっていることを踏まえ、家族と地域の変化に伴うこどもの育ちの現代的課題について理解する。さらに、自己生成と他者との関係性から、こどもが主体として「人と関わる力」を高めていくために必要な家族・地域のあり方について理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンスー授業の概要と進め方 第2回：家庭・地域の現代的課題とその社会的背景（1）社会の個人化と家族 第3回：家庭・地域の現代的課題とその社会的背景（2）社会の個人化と地域 第4回：「人と関わる力」が育つための基盤 第5回：多様な人と共に育ちあう 第6回：地域の多様性について考える 第7回：家庭・地域の季節の行事と人と関りあう体験 第8回：地域子育て支援拠点の機能と役割 第9回：地域における子育て支援の課題 第10回：こどもにやさしいまち 第11回：園・家族・地域の連携した保育を考える（1）（グループワーク）地域資源を知る 第12回：園・家族・地域の連携した保育を考える（2）（グループワーク）先進事例の検討 第13回：園・家族・地域の連携した保育を考える（3）（グループワーク）課題と提案 第14回：グループ発表・ディスカッション（1） 第15回：グループ発表・ディスカッション（2） 定期試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『保育内容「人間関係」：「共に育つ・			

創る」をめざして』(吉川晴美編集・他、ミネルヴァ書房)、『アタッチメントがわかる本「愛着」が心の力を育む』(遠藤利彦監修、講談社)、『幼児期一子どもは世界をどうつかむかー』(岡本夏木、岩波新書)

学生に対する評価

授業参加態度・Moodle 課題・小レポート 40%、グループワーク・プレゼン 20%、期末課題レポート 40%

授業科目名： 幼児と環境	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北澤 明子
			担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・環境		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 子どもを取り巻く環境（物的環境、人的環境、社会的環境）と子どもの発達におけるそれらの重要性について説明できる。</p> <p>2. 他領域と領域「環境」との関係性を理解することができる。</p> <p>3. 乳幼児期の思考・科学的概念の発達について理解し説明できる。</p> <p>4. 乳幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達について説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識及び技術を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる現代の子どもを取り巻く環境とその現代的課題、子どもと身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：保育の原則について			
第2回：環境を通じた保育について			
第3回：現代社会の子どもを取り巻く環境について①—保育の場の動画を見て環境について学ぶ—			
第4回：現代社会の子どもを取り巻く環境について②—環境の諸側面、課題の発表、整理—			
第5回：乳幼児期・児童期の認知的発達と環境との関わり			
第4回：乳幼児の物との関わり①—手作りおもちゃ—			
第5回：乳幼児の物との関わり②—玩具についてのグループワーク—			
第6回：乳幼児の物との関わり③—伝承遊びから文化や伝統について考える—			
第7回：乳幼児の数量・図形との関わり			
第8回：乳幼児の標識・文字との関わり			
第9回：乳幼児の情報・施設との関わり			
第10回：乳幼児の自然との関わり①—自然遊びの実践—			
第11回：乳幼児の自然との関わり②—自然遊びの考察—			
第12回：乳幼児の自然との関わり③—実践事例等の検討—			
第13回：環境構成について考える①—室内・園庭・発達に応じた環境構成—			
第14回：環境構成について考える②—安全や衛生についての配慮について—			
第15回：環境を取り巻く現代的課題について			
テキスト			
『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育』			

所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』（チャイルド本社）
参考書・参考資料等 『実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境 指導法』（小櫃智子編著・北澤明子他、わかば社）
学生に対する評価 各回の小課題（20%）、発表・レポート（30%）、小テスト（50%）

授業科目名： こどもと自然	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北澤 明子
			担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・環境		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く環境について理解し自然とのかかわりが大切な理由を説明できる。 2. 保育における自然の位置づけと全国の自然保育の制度の現状について理解し説明できる。 3. 自然の持つ特性について理解し、自然の中で子どもが遊ぶ際のリスクとハザードについて説明できる。 4. 自然に関する指導計画を立て、実践を行うことができる。 			
授業の概要			
<p>自然は子どもにとって必要不可欠なものとして、古くから保育の公的なガイドラインに位置づけられてきたとともに、近年では全国で自然保育の制度を創設する自治体も増えてきている。本授業では、このような制度や保育における自然の位置づけについて知り、なぜ子どもにとって自然とのかかわりが大切なのかについて理論・実践の両面から学んでいく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：子どもを取り巻く環境について</p> <p>第2回：保育における自然の位置づけについて</p> <p>第3回：自然の特性について学ぶ</p> <p>第4回：自然とのかかわりの事例検討①—植物—</p> <p>第5回：自然とのかかわりの事例検討②—石・水・泥・雨・川—</p> <p>第6回：自然とのかかわりの事例検討③—森のようちえんの実践より—</p> <p>第7回：自然とのかかわりの事例検討④—動物・生き物・その他—</p> <p>第8回：自然とのかかわりの実践①—森のようちえんでのフィールドワーク</p> <p>第9回：自然とのかかわりの実践②—森のようちえんでのフィールドワーク</p> <p>第10回：園庭環境について学ぶ①—フィールド見学—</p> <p>第11回：園庭環境について学ぶ②—フィールド見学・実践—</p> <p>第12回：自然あそびの指導案の立案</p> <p>第13回：自然あそびの教材準備</p> <p>第14回：自然あそびの実践</p> <p>第15回：自然あそびの振り返り等</p>			
テキスト			
『決定版 12か月の自然あそび87』（ウレシパモシリ高橋京子、新星出版社）			
参考書・参考資料等			

『身近な自然と遊んで育つ 保育実践 スウェーデンの自然環境教育から』監修櫻井慶一、編集森のムツレ協会新潟、わかば社)

学生に対する評価

フィールドワーク等の積極的参加 (30%)、自然あそびの指導案・レポート等の課題 (40%)、自然あそびの実技 (30%)

授業科目名： 幼児と言葉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 天宮 陽子
			担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・言葉		
授業のテーマ及び到達目標			
人間にとっての言葉の意義や機能について理解している。言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。児童文化財について、基礎的な知識を身に付けている。			
授業の概要			
領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。言葉の意義や機能について理解し、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。			
授業計画			
第1回：人間にとって「言葉」とは何か			
第2回：言葉の意義と機能：思い出の絵本			
第3回：子どもは、言葉をどのように獲得するのか			
第4回：言葉の発達過程：誕生から書き言葉（文字）習得まで			
第5回：言葉に対する感覚とは何か			
第6回：言葉の美しさ、楽しさを体験する（演習）			
第7回：言葉に対する感覚を豊かにするための実践方法			
第8回：言葉遊びの種類と保育への取り入れ方			
第9回：言葉に対する感覚を豊かにする実践			
第10回：子どもと楽しむ言葉遊びの提案（演習）			
第11回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは何か			
第12回：子どもにとっての「児童文化財」の意義			
第13回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の実際とICTの活用			
第14回：児童文化財を用いた保育実践			
第15回：模擬保育：絵本を用いた保育の実践			
定期試験は実施しない			
テキスト			
『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 言葉』（無藤隆・宮里暁美、萌文書林）、『幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省告示）』、『保育所保育指針（平成29年3月厚労省告示）』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月内閣府・文科省・厚労省共同告示）』			
参考書・参考資料等			
なし			

学生に対する評価

授業への参加度(グループ活動、発表) (70%)、振返りレポート (30%)

授業科目名： 児童文化財と遊び	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 天宮 陽子 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・言葉		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>伝承遊びや絵本、紙芝居などを通じ、子どもの発達に応じた児童文化財の技術と活用方法を身に付ける。地域文化や年中行事を保育活動に取り入れ、活用することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>児童文化財である伝承遊びや絵本等の意義を理解する。ポスター制作や実践発表を通じて表現力・指導力を高める。年中行事が持つ文化的意義を探り、保育現場で応用する方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもと児童文化：児童文化施設の紹介（前橋市内の施設見学）</p> <p>第2回：子どもと文学：絵本の特徴と種類、選定のポイント（絵本の役割、集団読み聞かせ技術）</p> <p>第3回：絵本の分析：『はじめてのおつかい』の構造と教育的価値</p> <p>第4回：絵本から発展する言葉遊びと動き（まねっこ遊び）</p> <p>第5回：伝承遊びの紹介と実践（異世代交流を意識した伝承遊び）</p> <p>第6回：伝承遊びの体験とその教育的意義</p> <p>第7回：絵本コーナー：絵本の魅力を伝える「おすすめ絵本ポスター」制作</p> <p>第8回：絵本コーナー：おすすめ絵本ポスター展示と実演プレゼンテーション</p> <p>第9回：エプロンシアターと紙芝居の技術的学び（制作は行わず技術に焦点を当てる）</p> <p>第10回：エプロンシアターと紙芝居の応用技術（実際の保育現場での活用方法を学ぶ）</p> <p>第11回：実践発表①：エプロンシアター</p> <p>第12回：実践発表②：紙芝居</p> <p>第13回：児童文化活動を知る：地域の文化財を活用</p> <p>第14回：年中行事と児童文化財の関連を学ぶ（年中行事が持つ文化的意義を探る）</p> <p>第15回：学習内容の振り返り、発表、ディスカッション</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて適宜紹介</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『児童文化』（皆川美恵子・武田京子編著、ななみ書房）、『児童文化』（川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著、萌文書林）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加度（50%）、レポート・発表（50%）</p>			

授業科目名： 幼児と表現	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠塚 晃子
			担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・表現		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに、「表現」領域における目標及び内容を理解する。 2. 子どもの表現の姿やその発達的特徴を理解し、保育者の援助や役割について説明できる。 3. 身体・造形・音楽表現などの様々な表現活動について他者と協同して主体的に取り組み、その面白さ生み出す要因について分析・考察することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「表現」に関連する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：領域「表現」のねらい及び内容の理解</p> <p>第2回：子どもの表現の発達と保育者としての援助や役割</p> <p>第3回：手で奏でる～手あそびを知る・つくる～</p> <p>第4回：体で奏でる～リズム遊びが育むもの～</p> <p>第5回：身体表現をともなう音楽遊び</p> <p>第6回：声で奏でる～表現手段としての声～</p> <p>第7回：声の多様性を意識する</p> <p>第8回：言葉と音楽～乳幼児期の言葉と音楽の関連性～</p> <p>第9回：身近な素材で奏でる</p> <p>第10回：造形と表現①自然素材の収集と手作り楽器の製作</p> <p>第11回：造形と表現②手作り楽器の発表と遊びの展開の検討</p> <p>第12回：手作り楽器によるリズムアンサンブル発表</p> <p>第13回：楽器を奏でる～楽器遊びのねらいと方法、保育者が配慮すべきこと～</p> <p>第14回：楽器活動による応答性のある遊び</p> <p>第15回：器楽アンサンブルの実践</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>『音楽表現』（駒久美子・味府美香編著、建帛社）</p> <p>参考書・参考資料等</p>			

『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 表現』（無藤隆監修・浜口順子編者代表、萌文書林）、ほか
必要に応じて適宜紹介

学生に対する評価

発表(50%)、レポート(20%)、リフレクションシート(15%)、授業への取り組み姿勢 (15%)

授業科目名： ピアノ奏法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠塚晃子・梶内美紀 担当形態：クラス分け・複数
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・表現		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 保育者として必要なピアノ演奏技術を養い、音楽表現することができる。</p> <p>2. 課題曲への演奏構築技術を理解した上で継続して練習し、課題を達成することができる。</p> <p>3. 実技向上に向け主体的に練習を行い、レパートリーの獲得を図ることができる。</p>			
授業の概要			
<p>保育現場において豊かな音楽活動ができる保育者になるために、ピアノの個別レッスンを通して、保育者として必要とされるピアノの基礎的な演奏技術を習得する。童謡、唱歌など子どもの歌を取り扱い、弾き歌いの技術や伴奏法を学び、音楽表現技術を養う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス、クラス分け、レッスン計画の立案</p> <p>第2回：季節の歌によるレパートリーの獲得①《チューリップ》《こいのぼり》</p> <p>第3回：季節の歌によるレパートリーの獲得②《とんぼのめがね》《どんぐりころころ》</p> <p>第4回：生活の歌によるレパートリーの獲得①《朝のうた》《おかえりのうた》</p> <p>第5回：生活の歌によるレパートリーの獲得②《おべんとう》《はをみがきましょう》</p> <p>第6回：小テストの課題曲の決定と演奏構築</p> <p>第7回：履修者全員の前で弾き歌いを行う小テスト</p> <p>第8回：ハ長調以外の調性による季節の歌①《ジングルベル》《あわてんぼうのサンタクロース》</p> <p>第9回：ハ長調以外の調性による季節の歌②《まめまき》《1ねんせいになったら》</p> <p>第10回：動物の歌によるレパートリーの獲得①《やまのおんがくか》</p> <p>第11回：動物の歌によるレパートリーの獲得②《あめふりくまのこ》</p> <p>第12回：定期試験に向けた課題曲の選曲と演奏構築</p> <p>第13回：弾き歌いに求められる歌唱と伴奏のバランスを考慮した演奏構築</p> <p>第14回：定期試験課題曲の仕上げ</p> <p>第15回：定期試験へ向けたクラス別での発表と振り返り</p>			
定期試験			
テキスト			
『こどものうた100』（小林美実監修・井戸和秀編、チャイルド本社）			
参考書・参考資料等			
適宜、資料を配布			
学生に対する評価			

実技試験（70%）、小テスト（10%）、授業への取り組み姿勢(10%)、授業による向上的変化（10%）

授業科目名： ピアノ奏法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠塚晃子・梶内美紀 担当形態：クラス分け・複数
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・表現		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者として必要なピアノ演奏技術を養い、実践的な音楽表現をすることができる。 2. 課題曲への演奏構築技術を理解した上で継続して練習し、課題を達成することができる。 3. 技術向上に向け主体的に練習を行い、レパートリーの獲得を図ることができる。 			
授業の概要			
既習のピアノ奏法Ⅰを基盤に、ピアノの個別レッスンを通して、保育者として必要とされるピアノの実践的な演奏技術を習得する。童謡、唱歌など子どもの歌を取り扱い、弾き歌いの技術や伴奏法を学び、音楽表現技術を養う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、クラス分け、ピアノ奏法Ⅰの既習曲の確認と今後のレッスン計画の立案			
第2回：へ長調のコードとレパートリーの獲得①《おはながわらった》			
第3回：へ長調のコードとレパートリーの獲得②《ありさんのおはなし》			
第4回：ニ長調のコードとレパートリーの獲得①《とけいのうた》《ことりのうた》			
第5回：ニ長調のコードとレパートリーの獲得②《おつかいありさん》			
第6回：小テストへ向けた課題曲の選曲と演奏構築			
第7回：弾き歌いによる小テスト			
第8回：ト長調のコードとレパートリーの獲得①《せんろはつづくよどこまでも》			
第9回：ト長調のコードとレパートリーの獲得②《ふしぎなポケット》			
第10回：コード伴奏による演習①《おおきなくりのきのしたで》			
第11回：コード伴奏による演習②《おはようのうた》			
第12回：3段譜による弾き歌いの演習①《やきいもグーチーパー》			
第13回：3段譜による弾き歌いの演習②《きのこ》			
第14回：定期試験に向けた課題曲の選曲			
第15回：クラス別での発表			
定期試験			
テキスト			
『こどものうた100』（小林美実監修・井戸和秀編、チャイルド本社）			
参考書・参考資料等			
適宜、資料を配布			
学生に対する評価			

実技試験（70%）、小テスト（10%）、授業への取り組み姿勢(10%)、授業による向上的変化（10%）

授業科目名： アートと遊び	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 天宮 陽子
			担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・表現		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>子どもの発達と造形表現に関する基礎知識を深め、身近な素材や廃材を活用した造形活動の技術と指導法を身に付けている。素材の特性を理解し、感性を育てる支援方法や協働的な活動への発展プロセスを学び、造形環境の重要性を理解している。</p>			
授業の概要			
<p>自然素材や廃材を活用した造形活動を通じて、創造性の育成と素材活用法を学ぶ。発達段階に応じた指導法や造形環境の構成を学び、科学的要素や自然との関わりを取り入れ、表現の幅を広げる。最後に、グループワークで共同制作の成果を考察し教育現場での実践に結びつける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：子どもの発達と造形表現：年齢に応じた道具の特性を理解し、表現活動の基礎を学ぶ。</p> <p>第2回：身近な素材を用いた環境構成：環境の設定と支援方法を学ぶ。</p> <p>第3回：身近な素材による感覚的体験：ポリ袋や花紙を使用した体感活動を通じ、子どもの感性を育む。</p> <p>第4回：造形表現と素材の活用：風船や花紙を用いた造形活動を通じて、素材の多様な可能性を探る。</p> <p>第5回：素材を用いた玩具制作：紙コップなどの日常素材を用いて、創造的な玩具の制作技法を学ぶ。</p> <p>第6回：素材の特性と造形活動：紙皿や厚紙を使い、素材の特性を生かした造形技法を探求する。</p> <p>第7回：動きを取り入れた造形表現：動きや仕掛けを伴う造形活動を通じて表現の拡張を考察する。</p> <p>第8回：廃材の活用と創造的表現：小麦粉やマカロニなど廃材を用いた活動を通じ、素材の再発見を行う。</p> <p>第9回：廃材を活用した玩具制作：ペットボトルなど廃材を使用し、創造的な玩具制作に取り組む。</p> <p>第10回：廃材を活用した造形活動：封筒や紙コップを用いた造形活動を通して表現の幅を広げる。</p> <p>第11回：科学的視点を取り入れた造形遊び：錯覚玩具を通じ、科学的な要素を含む造形活動を学ぶ。</p> <p>第12回：個の表現から協働的学びへ：共同制作を通じ、協働的な学びとコミュニケーションを深める。</p> <p>第13回：自然を取り入れた体験活動：自然素材を用い、季節を感じる体験活動を通じて感性を育てる。</p> <p>第14回：創造的発想と玩具の発案：身近な素材を活用して新しい玩具の発案し、想像力を発揮す</p>			

<p>る。</p> <p>第15回：グループによる実践と考察：個々の感性と共同的な学びを基に創造的なプロセスを考察する。</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト：なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『アートであそぼ』（マリオンデュシャーズ、グラフィック社）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加度（60%）、作品・レポート（40%）</p>

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北澤明子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針等における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容の関連を理解できる。 2. 幼児教育・保育における5領域について理解し、説明できる。 3. 保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）を踏まえ、指導計画の作成について理解できる。 4. 遊びの中で子どもがどのような経験をしているのかについて理解し、発達や個々の実情に応じた保育者の役割や援助について理解できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と各領域の「保育内容」の関連等、保育の全体的な構造を理解する。子どもを取り巻く社会的背景を踏まえ、具体的な子どもの姿や発達に即した保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）や遊びを通した総合的な指導について学び理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育の内容の歴史的変遷とその社会的背景</p> <p>第2回：保育の基本的な考え方①—養護と教育が一体的に展開する保育—</p> <p>第3回：保育の基本的な考え方②—子どもの主体性を大切にすること—</p> <p>第4回：保育の基本的な考え方③—環境を通して行う保育と保育者の役割—</p> <p>第5回：保育の基本的な考え方④—生活や遊びによる総合的な保育—</p> <p>第6回：子どもの発達と遊び—子どもにとって遊びとは—</p> <p>第8回：保育目標、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について</p> <p>第9回：各領域に示されるねらい及び内容</p> <p>第7回：教育課程の役割と保育の過程について</p> <p>第8回：指導計画の作成と考え方</p> <p>第9回：指導計画の実際①—製作活動—</p> <p>第10回：指導計画の実際②—活動から指導計画をたてる—</p> <p>第11回：保育の多様な展開①—長時間の保育—</p> <p>第12回：保育の多様な展開②—特別な配慮を要する子どもの保育—</p> <p>第13回：保育の多様な展開③—多文化共生の保育—</p> <p>第14回：地域・家庭との連携</p>			

第15回：小学校との連携・接続／全体のまとめ

テキスト

『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』（チャイルド本社）

参考書・参考資料等

『保育内容 5領域の展開：保育の専門性に基づいて』（高山静子、郁洋社）

学生に対する評価

各回の小課題（30%）、レポート（20%）、小テスト（50%）

授業科目名： 保育内容「健康」の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永井 真紀 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）・健康		
授業のテーマ及び到達目標 当該科目では、領域「健康」における、乳幼児の発育発達過程、基本的な生活習慣、安全、運動遊びの重要性などについての指導法を身に付ける。			
授業の概要 乳幼児期の心身の発育と運動発達、生活習慣や安全意識の形成などの理解を深め、保育を構想、実践、省察する。			
授業計画 第1回：子どもの健康 幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容の理解 第2回：多様な動きの経験を促す援助 遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助 第3回：領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助 気になる子、障害児、肥満児、家庭経験、性格特性等に応じた援助の在り方 第4回：健康な心とからだを育む保育の構想（計画立案）運動あそび場面 第5回：健康な心とからだを育む保育の構想（教材研究）運動あそび場面 第6回：健康な心とからだを育む保育の構想（模擬保育）運動あそび場面 第7回：健康な心とからだを育む保育の評価と改善（ICTの活用） 幼児理解と保育の視点を基盤とした評価（運動あそび場面） 第8回：健康管理と安全能力を育む援助 健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助 第9回：基本的な生活習慣の形成を支える援助 食事・清潔・衣類の着脱・排泄の習慣形成を支える環境構成と援助 第10回：健康な心とからだを育む保育の構想（計画立案）健康指導、安全指導場面 第11回：健康な心とからだを育む保育の構想（教材研究）健康指導、安全指導場面 第12回：健康な心とからだを育む保育の構想（模擬保育）健康指導、安全指導場面 第13回：健康な心とからだを育む保育の評価と改善（ICTの活用） 幼児理解と保育の視点を基盤とした評価（健康指導、安全指導場面） 第14回：幼児期に育まれる健康な心とからだと小学校の生活や学習で生かされる力 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校教科とのつながり 第15回：領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践 幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健康な体と心を育む活動 定期試験は実施しない。			

テキスト

『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康』（無藤隆監修・倉持清美編集、萌文書林）、『幼稚園教育要領』（文部科学省、東山書房）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『幼稚園教育要領』（文部科学省、東山書房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

レポート試験（70%）、模擬保育の発表内容（30%）

授業科目名： 保育内容「人間関係」の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永井 広子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・人間関係		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」のねらい及び内容等について理解し、人と関わる力を養うために必要な幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 2. 幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。 3. 幼児期の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を実践することができる。 			
授業の概要			
<p>領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で幼児の人と関わる力を育むために、幼児の具体的な姿から保育を構想できるよう、視聴覚教材の活用や模擬保育、ロールプレイの映像記録、発表や振り返りの資料作成等でICTの活用について考えていく。発達に即した主体的・対話的で深い学びを実現する保育を構想し実践する方法を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：幼児教育の基本と領域「人間関係」のねらい、内容及び内容の取り扱いの理解 第2回：保育者との信頼関係と安心・安定して園生活を送る援助のあり方 第3回：遊びや生活の中にある決まりやルールに関する援助（家庭との連携・通信作成） 第4回：遊びや生活の中にある決まりやルールに関する援助（ルールのある遊びと援助） 第5回：個と集団の育ちを考える①（事例研究とペープサート製作①） 第6回：個と集団の育ちを考える②（ペープサート製作②） 第7回：個と集団の育ちを考える③（ペープサート実践） 第8回：幼児期に経験させたい地域社会の中での多様な人との関わり（フィールドワーク） 第9回：関わりが気になる幼児の援助（有効な言葉や絵表示など教材研究と製作） 第10回：多様な感情を経験し、自他の気持ちの違いに気付く援助（ロールプレイの映像作成） 第11回：協同的な遊びの中で育ち合う保育の構想①（計画立案ICT活用・個の指導案作成） 第12回：協同的な遊びの中で育ち合う保育の構想②（教材製作・グループ指導案作成） 第13回：協同的な遊びの中で育ち合う保育の構想③（場の選定や環境の構成） 第14回：協同的な遊びの中で育ち合う保育の構想④（模擬保育と振り返りICTの活用） 第15回：「幼児期の終わりまでの育って欲しい姿」と幼小の交流活動 まとめ</p>			
テキスト			

『幼稚園教育要領』（文部科学省、東山書房）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』（無藤隆監修・倉持清美編著、萌文書林）

参考書・参考資料等

『幼児期保育内容人間関係』（岩立京子・西坂小百合編著、光生館）

学生に対する評価

レポート・課題（40%）、作品・実技（40%）、授業への取り組み意欲や態度（20%）

授業科目名： 保育内容「環境」の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北澤 明子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）・環境		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>2. 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と小学校以降の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>3. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力が身についている。</p>			
授業の概要			
現代の子どもを取り巻く環境や子どもと環境と関わりについての専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めていく。また、子どもが環境とかかわるなかで主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法について学ぶ。			
授業計画			
第1回：保育の基本と保育内容「環境」			
第2回：子どもの発達と領域「環境」—乳幼児期にふさわしいの環境と環境構成の実際—			
第3回：領域「環境」のねらい、内容の展開の実際①—子どもの活動や遊び場面の事例検討—			
第4回：領域「環境」のねらい、内容の展開の実際②—園外での活動の事例から—			
第5回：自然に親しみ植物に触れる保育の実際—自然遊び体験—			
第6回：標識・文字等に関わる保育の実際			
第7回：数量・図形等に関わる保育の実際			
第8回：生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際			
第9回：身近なもの（玩具）を用いた保育の実際①—グループワーク—			
第10回：身近なもの（玩具）を用いた保育の実際②—発表—			
第11回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（計画立案）			
第12回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（素材の収集）			
第13回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（模擬保育）			
第14回：模擬保育の振り返り・省察／保育におけるICT活用			
第15回：環境に関わる現代的課題・まとめ			
テキスト			
『実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境 指導法』（小櫃智子編著・北澤明子他、わか			

ば社)、『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』(チャイルド本社)

参考書・参考資料等

『基礎からまなべる保育内容(環境)ワークブック』(田中卓也他編著、あいり出版)

学生に対する評価

各授業の小課題(20%)、模擬保育・グループワーク・発表等(30%)、小テスト(50%)

授業科目名： 保育内容「言葉」の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 天宮 陽子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）・言葉		
授業のテーマ及び到達目標			
領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。			
授業の概要			
幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。			
授業計画			
第1回：幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容			
第2回：子どもの言葉の発達過程：言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋			
第3回：子どもの言葉の発達過程：書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉			
第4回：言葉を育む環境構成と援助：話したい、聞きたい意欲を生む援助			
第5回：言葉を育む環境構成と援助：生活に必要な言葉の習得を支える援助			
第6回：言葉を育む環境構成と援助：言葉のすれ違い、伝わらない状況への援助			
第7回：言葉を豊かにする環境構成と援助：言葉による伝え合いを育む支援			
第8回：言葉を豊かにする環境構成と援助：文字などで伝える楽しさを生み出す援助			
第9回：子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財（絵本、物語、紙芝居、かるた、積木）			
第10回：言葉に対する感覚を豊かにする実践：言葉遊び（しりとり、言葉集め、カードゲーム）			
第11回：子どもの言葉を育む保育の実践：模擬保育にむけての教材研究（ICTの利活用）			
第12回：子どもの言葉を育む保育の構想：指導案の作成			
第13回：子どもの言葉を育む保育の実践：模擬保育の実施			
第14回：子どもの言葉を育む保育の評価と改善：模擬保育の振り返り			
第15回：まとめ：子どもの言葉を育み、豊かにする保育実践			
定期試験は実施しない			
テキスト			
『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 言葉』（無藤隆・宮里暁美、萌文書林）、『幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省告示）』、『保育所保育指針（平成29年3月厚労省告示）』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月内閣府・文科省・厚労省共同告示）』			
参考書・参考資料等			
なし			

学生に対する評価

授業への参加度（模擬保育、討議）（60%）、振り返りレポート（40%）

授業科目名： 保育内容「表現」の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠塚 晃子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）・表現		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 2. 幼児の表現の姿やその発達、及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成の在り方を考察する力を身に付ける。 3. 具体的な指導場面を想定して保育を構想し、模擬保育を通して保育を改善する視点を身に付ける。 			
授業の概要			
領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた上で、幼児の表現の姿やその発達、及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成の在り方など、領域「表現」に関わる指導方法について学ぶ。			
授業計画			
第1回：幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容			
第2回：幼児の発達の段階に応じた領域「表現」に関わる保育内容			
第3回：子どもの表現を支える保育者の役割や環境について			
第4回：幼児期から児童期への接続			
第5回：身体表現と心が紡ぐ表現			
第6回：遊びが紡ぐ表現～音楽遊び・造形遊びが紡ぐ表現～			
第7回：多様な情報機器で紡ぐ表現～表現活動における情報機器の活用～			
第8回：表現と評価～幼児理解に基づいた評価～			
第9回：指導案の作成①内容の検討			
第10回：指導案の作成②具体的な構想を立てる			
第11回：グループでの指導案の検討①グループに分かれて内容を検討する			
第12回：グループでの指導案の検討②具体的な構想を立て、保育者役を決定する			
第13回：模擬保育の実践①			
第14回：模擬保育の実践②			
第15回：模擬保育の実践の考察と振り返り			
定期試験			
テキスト			
『保育内容表現』（島田由紀子・駒久美子編著、建帛社）、『幼稚園教育要領』（文部科学省、東			

山書房)

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

発表 (50%)、レポート(20%)、リフレクションシート(15%)、授業への取り組み姿勢(15%)

授業科目名： 憲法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 谷口 聡
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
日本国憲法に関する基礎知識を習得し、関係する社会問題への対応力の基礎を身につける			
授業の概要			
日本国憲法の指導理念と諸規定に関する判例と学説上の議論を学習する。			
授業計画			
第 1 回： イントロダクション、わが国の法体系における憲法			
第 2 回： 憲法とは何か 憲法の基本原理、憲法規範の特徴			
第 3 回： 近代立憲主義と近代憲法の歴史			
第 4 回： 日本国憲法誕生の過程			
第 5 回： 基本的人権の総論 その主体と制限			
第 6 回： 包括的基本権と法の下での平等			
第 7 回： 精神的自由権（内心の自由）			
第 8 回： 精神的自由権（表現の自由）			
第 9 回： 経済的自由権			
第 10 回： 社会権			
第 11 回： 三権分立の指導理念と原理			
第 12 回： 国会（立法府）			
第 13 回： 内閣（行政府）			
第 14 回： 裁判所（司法府）			
第 15 回： 平和主義と憲法 9 条			
定期試験			
テキスト			
『憲法〔第 8 版〕』（芦部信喜・高橋和之、岩波書店）			
参考書・参考資料等			
『憲法判例百選 I 〔第 6 版〕』『同 II 〔第 6 版〕』（長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編集、有斐閣）			
学生に対する評価			
期末試験（60%）、中間レポート（30%）、学習意欲（10%）			

授業科目名： 健康運動実習	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 永井 真紀 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 自分の体について、必要な運動について理解している。協調性を持つ中で、個性を發揮しながら実技に参加できる。チーム全体の利益を実現するために、決められたルールを理解し、守ることができる。			
授業の概要 身体は、使用すれば発達し使用しなければ退化することを理解した上で、自分の体について積極的に考え、必要性のある運動を生涯にわたって選択できる能力を養うための授業です。また、教員として、社会人として生活するうえでの基礎となる「協働」についても意識を高める授業です。			
授業計画 第 1 回：【講義】 オリエンテーション スポーツ実施の目的と方法について 第 2 回：ウォークラリー 第 3 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで (バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール) 第 4 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで (バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール) 第 5 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで (バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール) 第 6 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで (バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール) 第 7 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで (バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール) 第 8 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで (バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール) 第 9 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで (バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール) 第 10 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで (バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール) 第 11 回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールの理解から実践形式まで			

(バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール)

第12回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール)

第13回：ネット型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(バレーボール・バドミントン・テニス・ドッジボール)

第14回：形態的能力及び機能的能力の測定と分析①

第15回：【講義】生涯にわたる健康づくり (筋・骨格系)

第16回：ウォークラリー

第17回：ベース型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(キックベース・ソフトボール)

第18回：ベース型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(キックベース・ソフトボール)

第19回：ベース型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(キックベース・ソフトボール)

第20回：ゴール型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(フットサル・サッカー・バスケットボール)

第21回：ゴール型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(フットサル・サッカー・バスケットボール)

第22回：ゴール型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(フットサル・サッカー・バスケットボール)

第23回：ゴール型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(フットサル・サッカー・バスケットボール)

第24回：ゴール型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(フットサル・サッカー・バスケットボール)

第25回：ゴール型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(フットサル・サッカー・バスケットボール)

第26回：ゴール型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(フットサル・サッカー・バスケットボール)

第27回：ゴール型ゲーム 技術の習得およびルールを理解から実践形式まで

(フットサル・サッカー・バスケットボール)

第28回：【講義】生涯にわたる健康づくり (呼吸・循環器系)

第29回：【講義】生涯にわたる健康づくり (栄養)

第30回：形態的能力及び機能的能力の測定と分析②

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

『新版 健康と運動の科学』（九州大学健康科学センター編、大修館書店）、そのほか授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

レポート試験（50%）、実技への取り組み状況（40%）、実技（10%）

授業科目名： Spoken English I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小林 恵美
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業の主な目的は、学生がより効果的かつ自信を持って英語を話せるようになることです。焦点はスピーキングスキルの向上にあります。リスニング、リーディング、ライティングスキルも活用し、社会のおよび学術的な場面での効果的なコミュニケーションのために、(アクティブリスニングを含む) 口頭でのコミュニケーション能力を養うことが求められます。口頭での正確さや流暢さを向上させることを目的とした集中的な練習だけでなく、新しいアイデアを学ぶために記事を読んだりビデオを視聴したりし、それらを基にディスカッションを行います。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>さまざまな課題や活動を通じてスピーキングとリスニングの練習を実施します。さまざまなトピックに関するディスカッションに参加し、そこでは新出単語やフレーズ、そしてコミュニケーション戦略を使いながら学びます。授業には準備をして参加することを期待します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：コース説明、自己紹介アクティビティ</p> <p>第 2 回：ユニット 1、コンビニで働くか、レストランで働くか？ キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第 3 回：ユニット 1、1: コンビニで働くか、レストランで働くか？ グループワークやディスカッション、リテリング活動</p> <p>第 4 回：ユニット 2、現金とクレジットカードの比較：利点と欠点 キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第 5 回：ユニット 2、現金とクレジットカードの比較：利点と欠点 グループワークやディスカッション、リテリング活動</p> <p>第 6 回：ユニット 3、ボランティア活動をする事 キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第 7 回：ユニット 3、ボランティア活動をする事 グループワークやディスカッション、リテリング活動</p> <p>第 8 回：ユニット 4、専業主夫 キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第 9 回：ユニット 4、専業主夫 グループワークやディスカッション、リテリング活動</p> <p>第 10 回：ユニット 5、あなたも YouTuber になりたい？ キーワードの確認、ディスカッションのコ</p>			

ツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理

第11回：ユニット5、あなたもYouTuberになりたい？ グループワークやディスカッション、リテリング活動

第12回：ユニット6、自動運転車がほしい！ キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理

第13回：ユニット6、自動運転車がほしい！ グループワークやディスカッション、リテリング活動

第14回：ユニット7、スマホ vs ノートパソコン キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理

第15回：ユニット7、スマホ vs ノートパソコン グループワークやディスカッション、リテリング活動

定期試験

テキスト

Bossaer, A. (2023). What do you think?: 15 topics for discussion and conversation. (南雲堂)

参考書・参考資料等

- Online Learner's dictionaries - ozdic.com (collocations - common word combinations such as 'bright idea' or 'talk freely' - are the essential building blocks of natural-sounding English.) <https://ozdic.com/> (オンライン辞書)

学生に対する評価

1. 授業への参加態度 10%、2. ボキャブラリーワークシート 20%、3. リテリング 20%、4. 口頭課題 30%、5. 試験 20%

授業科目名： Spoken English II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小林 恵美
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業の主な目的は、学生がより効果的かつ自信を持って英語を話せるようになることです。焦点はスピーキングスキルの向上にあります。リスニング、リーディング、ライティングスキルも活用し、社会のおよび学術的な場面での効果的なコミュニケーションのために、(アクティブリスニングを含む) 口頭でのコミュニケーション能力を養うことが求められます。口頭での正確さや流暢さを向上させることを目的とした集中的な練習だけでなく、新しいアイデアを学ぶために記事を読んだりビデオを視聴したりし、それらを基にディスカッションを行います。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>さまざまな課題や活動を通じてスピーキングとリスニングの練習を実施します。さまざまなトピックに関するディスカッションに参加し、ここでは新出単語やフレーズ、そしてコミュニケーション戦略を使いながら学びます。授業には準備をして参加することを期待します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コース説明、ユニット8、オンラインデート キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第2回：ユニット8、オンラインデート</p> <p>第3回：ユニット9、有名であることの長所と短所 キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第4回：ユニット9、有名であることの長所と短所</p> <p>第5回：ユニット10、ハイブリッド型授業 — 未来の学びのかたち？ キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第6回：ユニット10、ハイブリッド型授業 — 未来の学びのかたち？ グループワークやディスカッション、リテリング活動</p> <p>第7回：ユニット11、週4日勤務か週5日勤務か？ キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第8回：ユニット11、週4日勤務か週5日勤務か？ グループワークやディスカッション、リテリング活動</p> <p>第9回：ユニット12、35歳で結婚 キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理</p> <p>第10回：ユニット12、35歳で結婚 グループワークやディスカッション、リテリング活動</p>			

第11回：ユニット13、美容整形 キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理

第12回：ユニット13、美容整形 グループワークやディスカッション、リテリング活動

第13回：ユニット14、さよなら、SNS！ キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理

第14回：ユニット14、さよなら、SNS！ グループワークやディスカッション、リテリング活動

第15回：ユニット15、在宅勤務の長所と短所 キーワードの確認、ディスカッションのコツやフレーズの導入、さまざまな視点や意見を整理、グループワークやディスカッション、リテリング活動
定期試験

テキスト

Bossaer, A. (2023). What do you think?: 15 topics for discussion and conversation. (南雲堂)

参考書・参考資料等

- Online Learner's dictionaries - ozdic.com (collocations - common word combinations such as 'bright idea' or 'talk freely' - are the essential building blocks of natural-sounding English.) <https://ozdic.com/> (オンライン辞書)

学生に対する評価

1. 授業への参加態度 10%、2. ボキャブラリーワークシート 20%、3. リテリング 20%、4. 口頭課題 30%、5. 試験 20%

授業科目名： 中国語 A I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 張 渭涛 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>初級中国語においては、ピンインを正確に発音でき、初歩的な聞き取りができるようになること、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得して比較的簡単な文章の読解と作文ができるようになることを到達目標として設定している。目安としては日本中国語検定試験準四級の合格を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中国語は、日本の漢字によく似た「簡体字」といわれる文字を、「ピンイン」と呼ばれるアルファベットと「声調」といういくつかのイントネーションとの組み合わせで発音します。前期の講義では、中国語の正しい発音を身につけるため、アルファードと「声調」とを組み合わせた「ピンイン」を正確に読む練習を繰り返し行っていきます。中国語は発音が難しい言語ですが、発音をおろそかにすると後々大変な影響が出ます。中国人先生について、発音をしっかり身につけたもののみが、卒業後も中国語を生かせるでしょう。そのため前期は発音の学習に重点を置きます。後期は発音に加えて基礎的な文法を順次身につけていきます。前期で身につけた正しい発音を確認しつつ、中国語でよく使われる基本的な単語や数字の読み方などを学んでいきます。また、会話文中心の教科書を読みながら、基礎的な文型を確認しつつ、ピンインの文章を正確に発音できるようにし、これを身につけて実践的な会話ができるようにもなってから、文法的に正しく中国語を読み・書くことができるように学習していこうと思っています。前期後期を合わせて、中国人先生について中国語の音の出し方の訓練と、文法的に正しい句（フレーズ）の作り方を、バランスよく勉強していくつもりです。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：(1) 導入：中国語とはどんな言語か、発音 (1) 声調 概要：中国語の特徴（世界の諸言語の中での位置づけ、標準語と方言）、日本語との関係、学習にあたって注意すべき点などについて学ぶ。中国語における発音の重要性、声調とピンインという重要な用語を理解する。声調とはどういう現象か、それが中国語の学習にとって如何に重要かを学び、正確にそれを発音できるようにする。復習：ドリルによって、中国人教員について発音を繰り返し聴き、自らも発音してみること。予習：単母音と複母音。</p> <p>第2回：声調、母音。予習：子音。ドリルの発表。</p> <p>第3回：声調と母音の復習、子音。予習：子音表。ドリルの発表。</p> <p>第4回：子音表、母音の復習。予習：鼻母音表。ドリルの発表。</p> <p>第5回：鼻母音、鼻母音表；母音と子音の復習。</p>			

<p>予習：声調座標軸、母音表、子音表、鼻母音表。ドリルの発表。</p> <p>第6回：発音ルールのおまとめ、声調座標軸と母音表、子音表、鼻母音表の復習。</p> <p>発音ルールのおまとめの予習。ドリルの発表。</p> <p>第7回：発音のルール（2）、発音ルールの復習。発音全般のおまとめ。</p> <p>発音テストの予習。ドリルの発表。</p> <p>第8回：発音のテスト、テストの講評。発音問題の総括、ドリルの発表。</p> <p>本文学習の紹介。第一課の予習：単語と会話の音読と翻訳。</p> <p>第9回：第一課「自己紹介」単語と本文の音読・翻訳；文法：人称代名詞、動詞の是、副詞の也と都、連体修飾の的、名前の言い方。ドリル：授業中発表と講評。</p> <p>第10回：第一課復習。第二課「一緒に映画を見ようよ」：単語と会話本文の音読と翻訳。</p> <p>文法：指示代名詞、動述文、形述文、省略疑文、語気助。ドリル：授業中発表と講評。</p> <p>第11回：第二課復習。第三課「キャンパス案内」：単語と会話本文の音読と翻訳。</p> <p>文法：所在表現、主述述語文、所有表現、疑問詞疑問文。ドリル：授業中発表と講評。</p> <p>第12回：第三課の復習。第四課「ペットも家族の一員」：単語と会話本文の音読と翻訳。</p> <p>文法：数詞、量詞、存在表現、選択疑問文、年齢の言い方。ドリル：授業中発表と講評。</p> <p>第13回：第四課の復習。第五課「誕生日のお祝い」：単語と会話本文の音読と翻訳。</p> <p>文法：前置詞、了、二重目的語、年月日と曜日、時刻。ドリル：授業中発表と講評。</p> <p>第14回：第五課の復習。第六課「遠距離通学」：単語と会話本文の音読と翻訳。</p> <p>文法：了、意欲助動詞、前置詞、多+形容詞、反復疑文。ドリル：授業中発表と講評。</p> <p>第15回：第一課～第六課の総復習。文法とドリルの質問と回答、再確認。</p> <p>期末試験の説明。期末試験の予習。</p>
<p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>『初級中国語 この1冊ー4 技能の習得を目指してー 改訂版』（丸尾誠・勝川裕子・李軼倫、金星堂）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『中検準4級試験問題 解答と解説』（日本中国語検定協会編、白帝社）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（50%）、グループディスカッションへの参加度（10%）、授業での発言（20%）、プレゼンテーション（ドリル）発表（20%）</p>

授業科目名： 中国語 A II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 張 渭涛 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>初級中国語においては、ピンインを正確に発音でき、初歩的な聞き取りができるようになること、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得して比較的簡単な文章の読解と作文ができるようになることを到達目標として設定している。目安としては日本中国語検定試験準四級の合格を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中国語は、日本の漢字によく似た「簡体字」といわれる文字を、「ピンイン」と呼ばれるアルファベットと「声調」といういくつかのイントネーションとの組み合わせで発音します。前期の講義では、中国語の正しい発音を身につけるため、アルファードと「声調」とを組み合わせた「ピンイン」を正確に読む練習を繰り返し行っていきます。中国語は発音が難しい言語ですが、発音をおろそかにすると後々大変な影響が出ます。中国人先生について、発音をしっかり身につけたもののみが、卒業後も中国語を生かせるでしょう。そのため前期は発音の学習に重点を置きます。後期は発音に加えて基礎的な文法を順次身につけていきます。前期で身につけた正しい発音を確認しつつ、中国語でよく使われる基本的な単語や数字の読み方などを学んでいきます。また、会話文中心の教科書を読みながら、基礎的な文型を確認しつつ、ピンインの文章を正確に発音できるようにし、これを身につけて実践的な会話ができるようにもなってから、文法的に正しく中国語を読み・書くことができるように学習していこうと思っています。前期後期を合わせて、中国人先生について中国語の音の出し方の訓練と、文法的に正しい句（フレーズ）の作り方を、バランスよく勉強していくつもりです。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：前期のまとめ：第一課～第六課の本文と文法。後期中検4級と3級受験説明。</p> <p>第2回：第七課「北京のベストシーズンは」 内容：単語と会話の音読と翻訳。文法：経験体、比較文型、少しの言い方、禁止助動詞、お金の言い方。ドリル：授業中の発表と講評。</p> <p>第3回：第七課の復習。第八課「中国語の勉強」。単語と会話の音読と翻訳。</p> <p>第4回：第七課の復習。第八課「中国語の勉強」 文法：能力助動詞、連動文型、進行形、動詞の重ね型、越～越～表現。ドリル：授業中の発表と講評。</p> <p>第5回：第八課の復習。第九課「リスニングは難しい」 単語と会話の音読と翻訳。</p> <p>第6回：第八課の復習。第九課「リスニングは難しい」 文法：結果補語、義務助動詞、概数表現、数量補語、程度補語。ドリル：授業中の発表と講評。</p> <p>第7回：第九課の復習。第十課「サークル活動」 内容：単語と会話の音読と翻訳。</p>			

第8回：第九課の復習。第十課「サークル活動」 文法：兼語文、疑問詞の用法、持続形、強調文型、様態補語。ドリル：授業中の発表と講評。

第9回：第十課の復習。第十一課「携帯電話」 内容：単語と会話の音読と翻訳。

第10回：第十課の復習。第十一課「携帯電話」 文法：兼語文／使役文型、処置文型、一～就～表現、一辺～一辺表現、V＋一下。ドリル：授業中の発表と講評。

第11回：第十一課の復習。第十二課「財布の紛失」 内容：単語と会話の音読と翻訳。

第12回：第十一課の復習。第十二課「財布の紛失」 文法：方向補語、程度補語、受身文型強調表現。ドリル：授業中の発表と講評。

第13回：第十二課の復習。第十三課「春節に故郷を想う」 内容：単語と会話の音読と翻訳

第14回：第十二課の復習。第十三課「春節に故郷を想う」。 文法：快～了の表現、存現文型、可能補語、複文、疑問詞の不特定用法。ドリル：授業中の発表と講評。

第15回：後期総復習：第七課～第十三課 単語、会話、文法、ドリルの質問と回答、再確認。
期末試験の説明。

定期試験

テキスト

『初級中国語 この1冊ー4 技能の習得を目指してー 改訂版』（丸尾誠・勝川裕子・李軼倫、金星堂）

参考書・参考資料等

『中検準4級試験問題 解答と解説』（日本中国語検定協会編、白帝社）

学生に対する評価

期末試験（50%）、グループディスカッションへの参加度（10%）、授業での発言（20%）、プレゼンテーション（ドリル）発表（20%）

授業科目名： 情報処理演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡辺 晃輔
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
大学生活を円滑に進めるための ICT の基本的知識およびスキルを習得し、今日の情報化社会に対応できる情報処理・データ集計の基礎的能力を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
情報化社会において、情報通信技術は社会における活動の基盤である。そして、情報通信技術の利用は大学での学修においても必要不可欠である。本授業は、表計算ソフトの操作およびデータ集計の基本的知識を身につけ、学修の基盤となるスキルを習得する。			
授業計画			
第 1 回：授業学修内容 イントロダクション：授業の意義・目的、進め方、データ集計と表計算について			
第 2 回：授業学修内容 表計算ソフト（1）：Excel の画面構成、起動・終了、データ入力・編集、保存等			
第 3 回：授業学修内容 表計算ソフト（2）：計算表の作成、書式設定、関数の利用			
第 4 回：授業学修内容 表計算ソフト（3）：関数の利用、相対参照と絶対参照			
第 5 回：授業学修内容 表計算ソフト（4）：グラフ作成、表やグラフの印刷等			
第 6 回：課題：これまでの授業内容をまとめ、課題の実施と解説			
第 7 回：表計算ソフト（5）：論理関数、検索／行列関数、文字列操作関数等			
第 8 回：表計算ソフト（6）：統計関数、データベース関数、日付関数等			
第 9 回：表計算ソフト（7）：データベース、並べ替え、集計、抽出等			
第 10 回：表計算ソフト（8）：ピボットテーブルを利用したクロス集計表の作成等			
第 11 回：課題：これまでの授業内容をまとめ、課題の実施と解説			
第 12 回：ソフトウェアの総合的活用（1）：表やグラフの他ソフトウェアでの利用、差し込み文書の作成等			
第 13 回：ソフトウェアの総合的活用（2）：目的、状況に応じたソフトウェアの総合的活用			
第 14 回：総合課題（1）：授業全体を通じた総合的な演習課題の実施			
第 15 回：総合課題（2）：演習課題の評価・解説			
定期試験			
テキスト			
『30時間アカデミック Office2021』（杉本くみ子・大澤栄子、実教出版）			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

学修内容の定着を確認するために、頻繁に実習課題の提出を求める。

課題の評価（90%）、授業への参加度と基本知識の理解（10%）

授業科目名： 教育と人間「教育原理Ⅰ」	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平岡 さつき
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目・教育の理念並びに教育に関する 歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 教育の基本的概念：教育学の諸概念、教育の本質および目標、教育を成り立たせる要素と相互関係について説明できる。</p> <p>2. 教育・保育に関する歴史：家族と社会による教育・保育の歴史、近代教育制度の成立と展開を理解し、現代社会における教育課題を歴史的な視点から説明できる。</p> <p>3. 教育・保育に関する思想：家族や子ども、学校や学習に関わる教育の思想について、代表的な教育家の思想を理解している。</p>			
授業の概要			
教育に関する基本的概念は何か、教育の理念にはどのようなものがあるか、それらが現れてきた教育・保育の歴史や思想、教育や学校などの教育機関の変遷を学ぶ。			
授業計画			
第1回：人間形成の歴史			
第2回：人間形成と環境：「原風景」やその機能			
第3回：「形成」という人間形成に関する諸説			
第4回：「教育」という人間形成：アリストテレスやカントなどの諸説を通して			
第5回：形成と教化と教育・保育：諸事例を通して歴史的・社会的に「教育」「保育」をとらえる			
第6回：世代交代と「教育」：ルソーなどの言説を通して			
第7回：発達と教育：人類史上における〈教育〉の誕生、遺伝と環境をめぐる諸説			
第8回：学校の歴史：近代教育制度の成立と展開			
第9回：新しい〈家族〉の誕生と新学校			
第10回：日本における〈子ども〉の誕生：DVD視聴により考察			
第11回：〈子ども〉〈教育〉の誕生とその思想：人口動態や昔話の変遷など心性史に学ぶ			
第12回：ペダゴギーとしての教育学（1）教育目標・評価論			
第13回：ペダゴギーとしての教育学（2）教材・教具論、指導過程・学習形態論			
第14回：現代教育課題について考察する			
第15回：まとめ			
定期試験			
課題レポートの提出を求める			
テキスト			
毎回授業レジュメや資料を配布共有する。			

参考書・参考資料等

『到達度評価入門－子どもの思考をみかく教育方法の開拓へ－』（小林千枝子・平岡さつき・中内敏夫、昭和堂）、「〈教育〉という人間形成」（平岡さつき『共愛学園前橋国際大学論集第18号』（2018）共愛学園前橋国際大学）、『赤い鳥事典』（赤い鳥事典編集委員会編、柏書房）、『〈つながる・はらたく・おさめる〉の教育学 社会変動と教育目標』（教育目標・評価学会編、日本標準）

学生に対する評価

課題レポート（60%）、授業ワークシートの内容（40%）

授業科目名： 教師・保育者論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大佐古紀雄・張 信愛
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教育の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>教育・保育の必要性や重要性が高まる現代社会において、教師・保育者の社会的意義を理解するとともに、教師・保育者に求められている役割と資質能力及び職務内容について身に付ける。また、子どもへの効果的な支援や保護者との連携について身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>教師・保育者を志す学生に対して、教師・保育者の意義やその役割・資質能力・職務内容について概説し、教師・保育者に対する理解を深めるとともに、教師・保育者への意欲、適性等について受講生が多角的に考える機会を提供する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 教師・保育者論とは（担当：大佐古紀雄）			
第2回：人間形成と教育（担当：大佐古紀雄）			
第3回：子どもの成長と発達（担当：大佐古紀雄）			
第4回：教育・保育の歴史（担当：大佐古紀雄）			
第5回：教育・保育に関する法制度と行政（1）日本（担当：張 信愛）			
第6回：教育・保育に関する法制度と行政（2）諸外国（担当：張 信愛）			
第7回：教師・保育者の仕事と役割（担当：張 信愛）			
第8回：教師・保育者に求められる資質能力（担当：大佐古紀雄）			
第9回：幼児教育・保育のカリキュラム（担当：大佐古紀雄）			
第10回：幼保小連携のありかた（担当：大佐古紀雄）			
第11回：教育・保育における職員間の連携・協働（担当：張 信愛）			
第12回：保護者の子育て支援（担当：大佐古紀雄）			
第13回：教育・保育と多文化共生（担当：張 信愛）			
第14回：地域社会と教育・保育支援（担当：大佐古紀雄）			
第15回：教師・保育者の職業的特徴と進路選択、そしてキャリア形成（担当：大佐古紀雄）			
定期試験			
テキスト			
『教育の基礎と展開』（高野良子、学文社）			
参考書・参考資料等			
『幼稚園教育要領』（文部科学省、東山書房）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育			

・保育要領解説』(内閣府、文部科学省、厚生労働省、フレーベル館)

学生に対する評価

筆記試験 (50%)、授業シート (20%)、課題レポート (30%)

授業科目名： 教育と社会「教育原理Ⅱ」	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 張信愛・天宮陽子 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育に関する社会的、制度的及び経営的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。また、教育・保育機関と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。さらに、教育をめぐる様々な課題を読み解き、自ら課題を設定して考察することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育に関する社会的、制度的及び経営的事項、教育・保育機関と地域との連携、教育・保育機関における安全への対応について、各校種、地域、諸外国の取り組み事例を踏まえて学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「教育と社会」の射程（担当：張 信愛） 第2回：教育制度の体系（担当：張 信愛） 第3回：諸外国の教育制度及び日本との比較検討（担当：張 信愛） 第4回：公教育の原理および理念（担当：張 信愛） 第5回：関係法規を読み解く（担当：張 信愛） 第6回：教育行政の理念と仕組み（担当：張 信愛） 第7回：教育・保育機関の経営（担当：張 信愛） 第8回：教育制度をめぐる諸課題：幼小接続問題、不登校、貧困対策（担当：張 信愛） 第9回：教育政策の動向：国際バカロレア、国際学力調査とリテラシー（担当：張 信愛） 第10回：学校保健安全（1）学校保健安全法とその必要性（担当：張 信愛） 第11回：学校保健安全（2）事件・事故及び災害の実情と対応（担当：張 信愛） 第12回：学校保健安全（3）事例検討と課題解決方法の考察（担当：張 信愛） 第13回：地域との連携の重要性と基本概念（担当：天宮陽子） 第14回：地域連携活動の計画と発表、相互理解の促進（担当：天宮陽子） 第15回：子どもの育ちを支える関係者・関係機関の連携・協働の在り方と課題（担当：天宮陽子・張信愛）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『学校経営』（浜田博文、ネルヴァ書房）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

『教育制度エッセンス』（元兼正浩、花書院）、『世界の学校：グローバル化する教育と学校生活のリアル』（二宮皓、学事出版）、『諸外国の教育動向』（文部科学省、明石書店）など

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）、課題・発表（20%）

授業科目名： 保育の心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 音山 若穂 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>幼児期から児童期にかけての子どもの心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できるようになることが目標である。</p>			
授業の概要			
<p>心身の発達及び学習の過程についての心理学の基礎的な解説を中心としながら、実際に制作をしたり、デモンストレーションや簡単な心理学実験も体験したりしながら学ぶ。保育者の教養としての心理学を幅広く伝える。</p>			
授業計画			
<p>第1回：子どもを理解すること 発達の概念と教育における発達理解の意義 第2回：保育と子どもの発達 発達と相互作用 発達の理論 第3回：赤ちゃんとの関わり 胎児期～乳児期の発達 赤ちゃんの知覚世界 第4回：感覚・知覚の発達 第5回：認知発達 アタッチメントと信頼感 第6回：概念、言葉の獲得 社会性の発達 第7回：子どもの学び 学習の理論 第8回：子どもと教育 臨界期と早期教育 幼保から小への接続の問題 第9回：意欲・動機づけ 第10回：個人と集団 子どもの対人関係 集団のなかの子ども 第11回：集団遊び、集団づくり 第12回：子どもとアセスメント 第13回：子どもの主体的な活動とその指導 第14回：主体的活動の指導案検討（発表） 第15回：主体的活動の指導案検討の振り返り 全体のまとめ</p>			
定期試験			
テキスト			
『子どもとかかわる人のための心理学』（沼山博・三浦主博編集、朋文書林）			
参考書・参考資料等			
『幼稚園教育要領』（文部科学省、東山書房）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府、文部科学省、厚生労働省、フレーベル館）			

学生に対する評価

レポート・課題（60%）、作品・発表（30%）、授業による向上的変化（10%）

授業科目名： 特別支援教育 (共生の教育)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上原 篤彦
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1 特別支援教育に関する理念や制度、仕組みを理解した上で、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の幼児及び児童生徒、および発達障害等の幼児及び児童生徒の心身の発達と学習・生活上の困難について理解し、その理解の下で適切な支援の方法を検討することができる。</p> <p>2 個別指導計画や個別教育計画の作成とその方法について、さらに特別支援教育コーディネーターの役割と関係諸機関との連携について理解した上で、実際に事例をもとに計画の立案を行うことができる。</p> <p>3 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児及び児童生徒について概観する。授業は座学での知識理解の他、支援のための方法検討や計画立案等のためにグループワークや発表での学生の積極的・主体的参加することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育に関する理念や制度、仕組みを学んだり、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の幼児及び児童生徒、および発達障害等の幼児及び児童生徒の心身の発達と学習・生活上の困難について理解し、その理解の下で適切な支援の方法を検討したりする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育に関する制度の理念</p> <p>第2回：特別支援教育に関する仕組み（インクルーシブ教育システムを含む）</p> <p>第3回：視覚障害・聴覚障害の幼児及び児童生徒の心身の発達と学習・生活上の困難</p> <p>第4回：視覚障害・聴覚障害の幼児及び児童生徒に対する支援の方法</p> <p>第5回：知的障害の幼児及び児童生徒の心身の発達と学習・生活上の困難</p> <p>第6回：知的障害の幼児及び児童生徒に対する支援の方法</p> <p>第7回：肢体不自由・病弱等の幼児及び児童生徒の心身の発達と学習・生活上の困難</p> <p>第8回：肢体不自由・病弱等の幼児及び児童生徒に対する支援の方法</p> <p>第9回：発達障害などの特別な支援を必要とする幼児及び児童生徒の心身の発達と学習・生活上の困難</p> <p>第10回：発達障害などの特別な支援を必要とする幼児及び児童生徒に対する支援の方法</p> <p>第11回：「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけとその内容</p> <p>第12回：個別指導計画と個別教育支援計画の作成とその方法</p>			

第13回：特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関・家庭と連携しながらの支援体制構築

第14回：特別な教育的ニーズのある幼児及び児童生徒の学習上または生活上の困難とその対応（多文化・貧困などを中心に）

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

『特別支援教育・保育概論』（尾野明美、小湊真衣他、萌文書林）

参考書・参考資料等

『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）』（文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業内で配布される小レポートや課題・グループディスカッション（50%）

授業科目名： 教育・保育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永井 真紀
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目・教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育課程や全体的な計画の意義と役割、編成の方法を理解し、長期・短期の指導計画・保育計画のつながりを保育の実際と関連付けている。また、子ども理解に基づく保育の計画・実践・記録・省察・評価・改善を身に付けている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保育における計画の意義や幼稚園教育要領の変遷、教育・保育課程の編成や指導計画作成のための基本と方法、カリキュラムマネジメントの意義や重要性を学び、よりよい保育者（教師）をめざすための学びを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育における計画の意義</p> <p>第2回：カリキュラムとは</p> <p>第3回：保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ</p> <p>第4回：学習指導要領改訂をめぐる論点とその社会的背景</p> <p>第5回：戦後日本の教育課程改革の歴史</p> <p>第6回：諸外国の教育課程</p> <p>第7回：社会における教育課程</p> <p>第8回：教育課程編成の基本原理と方法</p> <p>第9回：全体的な計画の作成の基本原理と方法</p> <p>第10回：資質・能力の育成と教育課程編成の課題</p> <p>第11回：特色ある学校の教育課程の事例検討</p> <p>第12回：カリキュラム・マネジメントをめぐる論点</p> <p>第13回：カリキュラムの評価</p> <p>第14回：指導要録の変遷と学力評価の課題</p> <p>第15回：小学校との接続</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>『基本保育シリーズ 教育・保育カリキュラム論』（公益財団法人児童育成協会監修・千葉武夫・那須信樹編集、中央法規出版）、『幼稚園教育要領』（文部科学省、東山書房）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（</p>			

内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館)、『幼稚園教育要領解説』(文部科学省・厚生労働省、フレーベル館)、『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

レポート試験 (70%)、毎回の授業最後に提出する小レポート (30%)

授業科目名： 教育方法・技術	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒羽正見 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育方法・技術の歴史的展開を把握し、これからの社会を担う子どもに求められる資質能力を育成するための教育方法・技術を理解するとともに、教授理論である目標・評価論、教材・教具論、指導過程・学習形態論の知見を踏まえて、教育・保育をデザインすることができる。さらに、教育心理学の視点から、ICT活用能力の育成や主体的・対話的で深い学びに向けた、現代的な教育・保育の指導法を教育実践に活かす力を付けることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近代公教育の発展の中で教育の方法や技術がどのように展開してきたかについて学ぶ。そのうえで、教育・保育の実践において必要な基礎的理論として、目標・評価論、施設・設備論、教材・教具論、指導過程・学習形態論について理解し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育・保育の方法・技術について具体的な事例や教育実践に基づいて考察をする。また、教育心理学の基本的視点を元にグループによるプレゼンテーションを通して保育、幼児・初等・中等教育における教育方法・技術について学ぶ。特に学習指導要領におけるICT活用能力、主体的・対話的で深い学びについての事例検討を行うことによって教授法についての理解を深め、これからの時代を担う教師としての資質を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育方法・技術の基本概念</p> <p>第2回：教育方法の歴史と思想</p> <p>第3回：教育・保育実践の方法（1）目標・評価論</p> <p>第4回：教育・保育実践の方法（2）施設・設備論</p> <p>第5回：教育・保育実践の方法（3）教材・教具論</p> <p>第6回：教育・保育実践の方法（4）指導過程・学習形態論</p> <p>第7回：教育・保育をデザインする（1）教育・保育展開</p> <p>第8回：教育・保育をデザインする（2）指導計画の発表</p> <p>第9回：ICT活用能力</p> <p>第10回：保育、幼児・初等教育におけるICT活用についての事例発表</p> <p>第11回：中等教育におけるICT活用についての事例発表</p>			

第12回：主体的・対話的で深い学び

第13回：保育、幼児・初等教育における主体的・対話的で深い学びについての事例発表

第14回：中等教育における主体的・対話的で深い学びについての事例発表

第15回：これまでのまとめとリフレクション

定期試験は実施しない。

テキスト

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』（文部科学省）、『中学校学習指導要領（平成29年告示）』（文部科学省）、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』（文部科学省）、『平成29年改訂幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）

参考書・参考資料等

『教育の方法と技術』（樋口直宏、ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

教育方法・技術に関するレポート（70%）、プレゼンテーション（30%）

授業科目名： ICT活用実践特講	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 大橋博・村山賢哉 担当形態：複数
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義の到達目標は文部科学省の「教育の情報化に関する手引」における「教員のICT活用指導力」に準拠し、教員に必要となるICT活用指導力を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
<p>情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）の発展は社会を大きく変容させ、教育においても情報化が推進されている。初等教育においても、文部科学省「GIGAスクール構想」をはじめとして、子どもたちの資質・能力を一層確実に育成するために教育ICT環境の実現が求められており、教員はICTを活用した授業・各種指導・学校運営に対応していかなければならない。そこで本講義では、理論学修と演習によって、現代社会で求められるICT活用指導力の習得をめざす。</p>			
授業計画			
第1回：情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力（1）情報モラル			
第2回：情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力（2）情報社会のリスク			
第3回：情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力（3）情報セキュリティ			
第4回：情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力（4）情報通信技術の活用			
第5回：児童生徒のICT活用を指導する能力（1）コンピュータの基本操作			
第6回：児童生徒のICT活用を指導する能力（2）情報収集			
第7回：児童生徒のICT活用を指導する能力（3）ソフトウェアの利用			
第8回：教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力（1）ICT・インターネットの利用			
第9回：教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力（2）情報の収集・発信			
第10回：教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力（3）教材作成のためのソフトウェア利用			
第11回：教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力（4）学びの記録・整理と評価			
第12回：授業にICTを活用して指導する能力（1）ICTを活用した資料の提示			
第13回：授業にICTを活用して指導する能力（2）ICTを活用した協働学習の設計			
第14回：授業にICTを活用して指導する能力（3）ICTを活用した協働学習の模擬実践			

第15回：授業にICTを活用して指導する能力（4）協働学習のためのソフトウェア利用

テキスト

授業内で各担当教員の作成した資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

『教育の情報化に関する手引き』（文部科学省）

学生に対する評価

授業での積極性（50%）、課題（50%）による総合評価

業科目名： こどもの理解と援助	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 音山若穂
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・幼児理解の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えられることが目標である。			
授業の概要			
幼児理解についての知識や技能について、理論や基本的な考え方を解説する。エピソード記録の作り方や、保育ドキュメンテーションの作成方法や利用方法についても学ぶ。また、模擬園内研修での事例検討や、実際に園を訪問して保育観察を含めて学習する。			
授業計画			
第1回： 子ども理解の意義 養護及び教育の一体的展開			
第2回： 子どもの生活や遊び			
第3回： 共感的理解と関わり			
第4回： 観察と記録の意義 エピソード記録の取り方			
第5回： ドキュメンテーションの作り方			
第6回： 事例検討：個と集団の関係			
第7回： 事例検討：幼児のつまずきと周りの幼児との関係			
第8回： 事例検討：保護者との関係			
第9回： 保育観察（1日目）主に集団場面での子どもの観察			
第10回：保育観察（1日目）クラスを変えて観察			
第11回：保育観察（1日目）振り返り			
第12回：保育観察（2日目）主につまずきの視点での子どもの観察			
第13回：保育観察（2日目）クラスを変えて観察			
第14回：保育観察（2日目）振り返り			
第15回：全体のまとめと振り返り			
定期試験			
テキスト			
『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）			
参考書・参考資料等			
『障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導』（文部科学省）、『養護と教育が一体化となった保育と			

は』(全国保育士会)

授業科目名： 教育相談論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 唐 音啓
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業の目標は、①幼児、児童及び生徒における教育相談がどのようなものを理解すること、②幼児、児童及び生徒の発達の状況に応じた状況や、抱えやすい悩み・問題について理解すること、③支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）身につけることの3点である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談とは、幼児、児童及び生徒たちの健全な成長や発達の支援を目的とした教育活動のことである。園生活や学校生活を送る中で、幼児、児童及び生徒たちは、友人関係における問題や不登校、学級崩壊といったさまざまな困難を抱えることあるだろう。保育者・教師は、こうした状況への対処のみならず、日々の生活の中において、幼児、児童及び生徒や保護者への対応を身につけることが求められる。この授業では、幼児、児童及び生徒たちが抱えやすい心理社会的な問題を理解した上で、教育相談の基礎的な知識や事例を実践的に学ぶことを目的としている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」講義の概要，講義内容，評価方法についての説明を行う。</p> <p>第2回：「教育相談とは？」教育相談の必要性やその枠組みについて学ぶ。</p> <p>第3回：「教育相談を支える心理学」臨床心理学や学校心理学の視点から，学校における教育相談のあり方を捉える。</p> <p>第4回：「相談をしない子どもたちへの理解」教師の視点から，相談をしない・できない子どもたちがどのような心理状態にあるかを考え，理解を深める。</p> <p>第5回：「幼児期・児童期・青年期の発達」幼児期・児童期・青年期に生じやすい発達課題について学び，抱えやすい悩みに関する理解を深める。</p> <p>第6回：「幼児期・児童期・青年期の発達課題への対応」スクールカウンセラー等の仕事についての理解を深めつつ，幼児期・児童期・青年期の発達課題に保育者・教師としてどのような対処ができるかを考える。</p> <p>第7回：「カウンセリングの理論」カウンセリングの基本的な考え方や，学校現場でどのように活用されているかを，ペアまたはグループでロールプレイングを行いながら体験する。</p> <p>第8回：「カウンセリングの技法」カウンセリングの具体的な方法について，講義で学んだ</p>			

方法を活用して、ペアまたはグループでロールプレイングを行う。

第9回：「カウンセリングの実践」学校現場を取り巻くさまざまなテーマに沿って、グループでカウンセリングのロールプレイングを実施した後、フィードバックを行う。

第10回：「反社会的行動・非行行動への理解と支援」事例を用いながら、問題への理解や支援の方法、予防について学ぶ。

第11回：「いじめ・学級崩壊への理解と支援」事例を用いながら、問題への理解や支援の方法、予防について学ぶ。

第12回：「不登校・虐待問題への理解と支援」事例を用いながら、問題への理解や支援の方法、予防について学ぶ。

第13回：「特別支援教育への理解と支援」特別支援の対象となる障害や発達について学ぶ。

第14回：「保育者・教員のメンタルヘルス」保育者・教員が抱えやすいストレスについて学び、日々のストレスの緩和や対処法には、どのようなものがあるか考える。

第15回：「まとめ」これまで学んだ内容を振り返り、教育相談への理解を深める。

定期試験：レポート

テキスト

各回でレジュメやワークシートを配布する。

参考書・参考資料等

『子ども理解と教育相談』（島海順子ら、東洋館出版社）、『教育相談（MINERVA はじめて学ぶ職業 16）』（吉田武男ら、ミネルヴァ書房）、『よくわかる教育相談』（春日井敏之ら、ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

授業内のワークやディスカッション（70%）、最終レポート（30%）により評価を行う。

シラバス 教育実践演習

シラバス：保育・教職実践演習（幼）	単位数：2単位	担当教員名：北澤明子、永井広子			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	○
受講者数	50人（1クラス25人の2クラス体制で実施）				
教員の連携・協力体制 授業実施にあたり、教職実践演習の担当者2名とその他の領域に関する科目及び教職に関する科目の担当が必要に応じて連携し、授業内容等を協議し協力して展開する。また、幼稚園、保育園、こども園等の園長や保育者をゲストティーチャーとして招いたり、学園内の共愛こども園・共愛小学校と連携し実施内容や方法等を協議しつつフィールドワーク等を実施したりする。 学生の入学からの学習内容、理解度、履修状況を把握するため「履修カルテ」を作成し、保育者としての知識技能を修得したことを確認する。					
授業のテーマ及び到達目標 1. 保育者として必要な保育に関する専門的知識及び技術、教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたのか、自らの学びを振り返り確認する。また、学びを踏まえ、自己の課題を明確に言語化することができる。 2. 実習等を通じた体験や収集した情報に基づき、保育・幼児教育に関する現代的課題についての現状を分析し、保育者として必要な対応について考察することができる。 3. 子どもの発達や心身の状況に応じた適切な指導を行い、計画、保育環境の構成などを工夫することができる。					
授業の概要 4年間で得た保育者として必要な専門的知識及び技術、教養、判断力、倫理観等を習得、形成できたのかについて振り返りを行っていく。その上で、保育に関する現代的課題について学びを深め、実践力を身に着けていけるようグループ討議、ロールプレイ、事例研究、模擬保育等を行い、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図っていく。					
授業計画 第1回：本授業のガイダンスとこれまでの学修の振り返り（合同で実施） 第2回：履修カルテ及び実習の振り返り（担当：北澤、永井） 第3回：子ども理解・クラス運営について（担当：北澤、永井） 第4回：子ども理解・人権について（担当：北澤、永井） 第5回：子育て支援・家庭支援一事例検討・ロールプレイヤー（担当：北澤、永井） 第6回：保育における危機管理・安全管理・トラブル対応（担当：北澤、永井） 第7回：保育の現代的課題についてーグループディスカッションー（担当：北澤、永井） 第8回：保育観・キャリアデザイン（担当：北澤、永井） 第9回：フィールドワーク参観実習 幼児の発達理解と経験の意味					

<p>(共愛こども園・共愛小学校) (担当：北澤、永井)</p> <p>第10回：フィールドワーク参観実習 幼児の発達理解と経験の意味 (共愛こども園・共愛小学校) (担当：北澤、永井)</p> <p>第11回：参観実習についての発表とディスカッション (担当：北澤、永井)</p> <p>第12回：自己課題を視点とした模擬保育 自己課題の明確化と指導案作成 (担当：北澤、永井)</p> <p>第13回：自己課題を視点とした模擬保育の実践と振り返り① (保育者・子ども・観察者) (担当：北澤、永井)</p> <p>第14回：自己課題を視点とした模擬保育の実践と振り返り② (保育者・子ども・観察者) (担当：北澤、永井)</p> <p>第15回：保育者としての資質・能力の確認、課題の明確化、まとめ 目指す保育者像 (合同で実施)</p>
<p>テキスト</p> <p>教員作成資料、『幼稚園教育要領解説』(文部科学省、フレーベル館)、『保育所保育指針解説』(厚生労働省、フレーベル館)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府、フレーベル館)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『幼稚園教育指導資料集1・2・3・4・5集』(文部科学省)、『保育・教職実践演習 実践力のある保育者を目指して』(野津直樹・宮川萬寿美編著、萌文書林)</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業での振り返り・レポート(50%)、模擬保育等での実践・発表等(50%)</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。